

### <地域支援の事例>

大曲養護学校の地域支援部は、主に大仙市、仙北市、美郷町を支援エリアに活動しています。今回は、たくさんある事例の中から、3つのケースをご紹介します。

#### 1 A幼稚園における視覚障害児への支援

発達障害幼児2名に対する2年間の継続支援を行ってきました。ことばによる指示に加え、視覚情報を合わせて提示することで、子どもたちに変化が見られました。担当者同士でアイデアを出し合い、手作り教材を準備することで、職員の意識も高まり、子どもたちが確実に応えてくれるようになりました、という支援の繰り返しにより、職員の意識も高まってきました。何より、対象児2名に限らず、幼児全員の見る・聞く姿勢が整い、集中力がアップしました。

#### 2 B小学校における校内支援体制の構築

通常学級に在籍する支援を必要とする児童に対して、支援のあり方を探りました。対象児は全学年に少なくとも2～3名は在籍している状況から、全校体制での取組となりました。特別支援学級を弾力的に運用しながら、校内支援体制を構築し、機能させることが可能となりました。支援を必要とする児童への個別の配慮、一人一人を伸ばす集団としての学級経営の充実に大きな成果が認められました。

#### 3 <エピソードより>『子どもが変われば・・・』

担任のS先生が駆け寄ってきて「先生、Kさんがほとんど全部の授業に参加できるようになったんですよ」という明るい声・・・支援を続けてきてよかったと思えるひとときです。適切な支援があれば子どもは変わり、子どもが変われば、これまでの担任の悩みが解消されて、担任に笑顔がもどります。学級の子どもたちもKさんを受け入れ、仲間意識が強まります。学級全体が好循環に回り始めます。校長先生が子どもたち一人一人に声をかけます。そこにはもはや以前のようなKさんを特別視するような眼差しはありません。校内支援体制が機能している明るい学校になります。保護者も足取り軽く校門をくぐるものが多くなりました。以前のような暗い表情はなく、今では子どもの成長を共に喜び合える支援者です。近所の方ともあいさつをかわし、会話を弾ませています。

子どもが変われば、学校が変わり、地域が変わります。一人一人の子どもを支援することは、子どもたちを取り巻く環境を変えることにつながります。小さな支援から大きなネットワークが広がることを期待しながら、さて今日も一歩踏み出しましょう。